

支 部 通 信

日本山岳会山梨支部 第3期第12号
令和4年6月30日

定時総会を開催

日本山岳会山梨支部の令和4年度の定時総会が4月16日(土)にびゅあ総合にて開催された。今年の総会には22名の会員が出席し、委任状を提出した27名と合わせて49名となり、正会員62名の過半数に達したため、支部規約の定めるところにより総会は成立した。

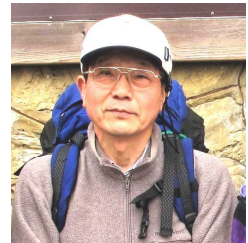
古屋事務局担当の開会の言葉に続き、昨年12月27日に逝去された故田村英也会員への黙祷がなされた。北原支部長の、更なる支部活動活発化に向けた所信を踏まえた挨拶の後、支部長を議長として、議事に入った。まず、令和3年度の事業報告、収支決算報告、監査報告が承認され、続いて、令和4年度事業計画、収支予算が原案通り承認された。更に支部規約、弔意規程の改定についても挙手により満場一致で可決された。役員改選については事務局案が承認された。

続いて令和3年度本部・支部事業活動実績並びに令和4年度支部事業予定の報告があった。その他の項目として、規約・規程、会員名簿の取り扱いに関する説明がなされ、新理事に就任した小嶋数文・河野芳尚・相川修各理事から挨拶があり、最後にコロナ禍で2年開催が見送られてきた懇親会を、6月10日(金)湯村温泉柳屋にて開催する予定であることを確認して、閉会となった。(小嶋数文)

令和4・5年度役員

定時総会において、令和4・5年度の役員が次の通り承認された。支部事業の継続と発展のため尽力したい。また理事会での協議により、理事の分掌を下表のように決定した。各事業の運営に、会員各位のご協力をお願いしたい。

支部長	北原 孝浩(再任)
副支部長	磯野 澄也(理事再任・副支部長新任)
理事長	古屋 寿隆(理事再任・理事長新任)
理事(会計担当)	小宮山 千彰(再任)
理事(事務局担当)	古屋 寿隆(再任・兼務)
理 事	遠山 若枝(再任)、中村 光吉(新任)、矢崎 茂男(再任)、渡辺 峯雄(再任) 窪田 光一(再任)、小嶋 数文(新任)、河野 芳尚(新任)、相川 修(新任)
監 事	小宮山 稔(再任)、所 一路(新任)
顧 問	遠藤 靖彦、内藤 順造、深沢 健三



北原支部長

※遠藤顧問は、定時総会翌日の4月17日逝去されました。

理事分掌

分 掌	氏 名	担 当	分 掌	氏 名	担 当
支 部 長	北原 孝浩	支部統括	登山基礎講座 担当	古屋 寿隆	責任者
副支部長	磯野 澄也	支部長補佐		遠山 若枝	補佐
理 事 長	古屋 寿隆	理事会管掌		小嶋 数文	補佐
事務局担当	古屋 寿隆	事務局長	山行委員会	小宮山千彰	委員長
	小嶋 数文	事務局長補佐		渡辺 峯雄	事務局
	河野 芳尚	業務改善担当		相川 修	補佐
会計担当	小宮山千彰	責任者	山岳古道調査 委員会	小宮山千彰	金峰山古道委員長
	窪田 光一	補佐		古屋 寿隆	南ア北部古道委員長

広報担当	矢崎 茂男	責任者、会誌等 ホームページ	山岳レインジ ャー担当	古屋 寿隆	責任者
	河野 芳尚		自然保護担当	中村 光吉	責任者

令和4年度 山行計画を策定

本年度の支部の山行を次のように計画した。山行委員が創意を懲らした内容。充実した山行になるよう、大勢の参加を期待する。(渡辺峯雄)

月	日	区分	山名・地域名	担当者	山行のポイント
4月	9日	会員	雨ヶ岳	磯野澄也	天子山地の北端に聳える名山探訪
	17日	支部	茅ヶ岳周回	古屋寿隆	第41回深田祭記念山行
	23日～ 24日	支部	富士山5.6.7合目	古屋寿隆	残雪期登山の為の雪山登山技術習得と 雪上訓練
5月	10日	会員	八重山から能岳	白田昌美	八重山から能岳へのお花見山行
	22日	支部	西沢溪谷周回	大澤純二	第5回田部祭記念登山
6月	4日	支部	湯村山	古屋寿隆	夏山登山の為のロープワークとハイキ ングレスキュー技術習得
7月	2日	支部	蛾ヶ岳～大平山	渡辺峯雄	山梨百名山と甲斐百名山展望の山旅
	9日～ 10日	会員	唐松岳～五竜岳	小宮山千彰	高山植物を愛でながら快適な岩稜歩き を楽しむ
8月	11日	家族	富士北麓ハイキング	古屋寿隆	第3回家族登山・県山岳連盟と共催
9月	4日～ 6日	会員	北穂高岳	小宮山千彰	憧れの北穂高岳に登頂し大キレットを 俯瞰する
10月	15日	会員	鶏冠山	荏原由美子	徒渉、岩稜、紅葉と溪谷美を楽しむ
	16日	支部	横尾山	古屋寿隆	第63回木暮祭記念山行
	29日	支部	五宗山	磯野澄也	紅葉と富士本栖湖の景観を楽しむ
11月	3日	支部	苗敷山・旭山	古屋寿隆	歴史の山を訪ねる
	下旬	支部	丹沢大倉尾根から 蛭ヶ岳	黒沼英美	神奈川の名山を1泊2日で楽しむ
12月	17日～ 18日	支部	富士山5・6・7合目	古屋寿隆	冬山登山の為の雪山登山技術の習得と 雪上訓練
1月	9日	支部	焼津アルプス	磯野澄也	静岡の山と海の幸を楽しむ
2月	上旬	会員	霧ヶ峰・鷲ヶ峰往 復と八島湿原	大澤純二	スノーシューハイク、緩やかな雪山と 湿原周遊
3月	25日	会員	大栃山・花鳥山	白田昌美	桜と桃とカタクリ・春の花の縦走
2月～ 3月	未定	支部	雪山入門ステップ アップ講習	小宮山千彰	全2回程度

※区分 「支部」＝支部山行（公募山行） 「会員」＝会員山行（支部員のための山行）
「家族」＝家族山行（参加家族を公募しての山行）

2022 第8回やまなし登山基礎講座の概要

昨年はコロナ禍で開催できなかった「やまなし登山基礎講座」を再開することとした。登山初級者や登山の基礎知識・技術を学び直したい中級者を対象に、下記の内容で実施する。

- ① 9/8（木）オリエンテーション、日本山岳会について、山の天気と観天望気
- ② 9/15（木）安全安心登山の基本、装備・服装・食糧
- ③ 9/22（木）地図読み、山の救急医療
- ④ 9/24（土）実践登山1（茅ヶ岳）（地図読み・ロープワーク・セルフレスキュー）
- ⑤ 9/29（木）山岳遭難、山の自然保護
- ⑥ 10/1（土）実践登山2（高川山）（総合登山）

⑦ 10/6 (木) 山の文学、山梨の登山史、山岳写真、修了式

①②③⑤⑦の開催場所・時間は、は甲府市総合市民会館、午後 7:00 ~ 9:10。受講料 12,000 円は、テキスト代・資料代・山岳保険代・写真代に充てる。⑤の「山岳遭難」は、山梨県警察本部地域課山岳警備安全対策隊長に講師を務めていただく。無料で一般公開する予定である。(古屋寿隆)

山行報告

【雨ヶ岳】 ■令和4年4月9日 (土) ■地図：2万5千図「人穴」

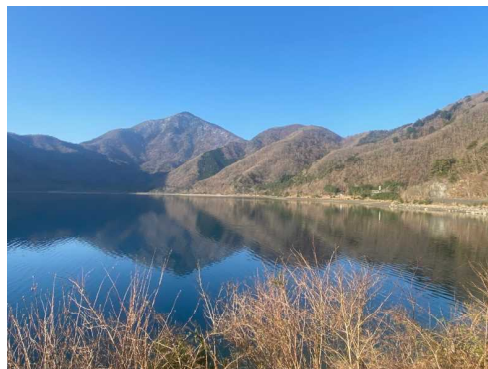
■行程：本栖浩庵キャンプ場－仏峠－御飯峠－雨ヶ岳－端足峠－本栖浩庵キャンプ場

■参加者：磯野澄也、北原孝浩、渡辺峯雄、上田謙治、臼田昌美、石澤貴子

本栖湖の南東側に尖塔のように堂々と高く聳える山が雨ヶ岳である。山名は雨乞いを行う場所、平地から突出した山、天に近い山などに由来するようだ。科学的には駿河湾に近いので、湿った空気が毛無山地に当たり、雨や霧をもたらすことが山名に関係している。

本栖湖が標高 900 m、山頂が 1772 m であるため、標高差で 870 m ある。一般的には端足峠から頂上ピストンのルートがとられるが、今回は本栖湖西岸の仏峠に登り尾根伝いに頂上、端足峠経由して本栖湖への周遊コースとした。

7時に浩庵キャンプ場に集合、7時15分出発。すぐに本栖湖いこいの森キャンプ場に到着、ここから登山道に入って40分くらいで仏峠に着いた。眼下の林の合い間にブルーの湖面が広がる。1週間前の偵察時にはかなりの雪が尾根に残っていた。その翌日、本栖には約40センチの季節外れの大雪があった。今回かなりの残雪が予想されたが、やはり春は雪解けが早く、尾根は日当たりも良いため大半が消えていた。ここから御飯峠までは50分位。この峠は身延町栃代と浩庵キャンプ場の分岐点であり、私の小中学時代の夏季は本栖キャンプが恒例で、学校から栃代を経て本栖湖に行った。



前週、本栖側を確認したが、道はかなり不明瞭になっている。大小のピークが5つ続いて、1330 mのコルに出る。途中の1393 mピークは西側に巻くと、そのまま西尾根に入り込みやすいので注意を要する。西には白根三山・塩見岳・荒川岳・赤石岳が木々の合い間に現われる。東には竜ヶ岳・富士山が明瞭で、下方の本栖湖の青さは印象的だ。コルから急登が始まる。北斜面のため積雪は深い。2時間強で標高差440mを登り切ると、頂上への笹原に出た。あいにくお目当ての富士山は雲の中で視界は悪い。積雪約10 cmの中、昼食とする。

45分の昼食後、東側の尾根に向けて下山開始。日当たりが良いので、ぬかるんだ登山道は笹も手伝い大変滑り易い。次第に竜ヶ岳が近くなり、富士山の雲も取れ、絶好の登山日和になる。端足峠までは標高差500 m、1時間半くらいで着く。竜ヶ岳から下山してきた方々数名と会う。北側の尾根を本栖湖に向かい下山する。途中、尾根登山道沿いに多数のバイカオウレンの白い健気な花と出逢い、その都度撮影で時間をとられる。約1時間半かけて、始点の浩庵キャンプ場に到着。時刻、15時40分。

湖畔沿いに車を走らせ、振り向くと雨ヶ岳の勇壮な姿。皆、満足気であった。この後、ゆるキャンで人気の浩庵に行き、新装なったキャンプ場を見学して散会した。(磯野澄也)

【茅ヶ岳と第41回深田祭】 ■山行日：令和4年4月17日 (日) ■地図：2万5千図「茅ヶ岳」

■行程：深田記念公園－女岩－山頂－尾根道－深田記念公園

■参加者：古屋寿隆、北原孝浩、矢崎茂男、大澤純二、大澤さな枝、渡辺峯雄、渡辺秀子、小嶋数文、平松清子

第41回深田祭当日、会員9名で恒例となった茅ヶ岳に登った。今回もコロナ禍のため祭自体は規模縮小しての開催だと聞いていたが、7時半には早くも臨時駐車場が満車となるほどの人出。一年の内、この山が最も活況を呈する日である。

深田記念公園前広場を8時過ぎに出発。参加者は植物に詳しい会員ばかりで、路傍のヒゴスミレやエイザンスミレ、フジザクラやクロモジなどに出合うたびに足が止まり、その可憐さや特徴の解説に、文字通り花が咲いた。1時間以上かかって女岩手前に到着。かつての給水場は、落石危険箇所となって立ち入りが規制されている。岩間からしたたり落ちる清水の代わりに、持参のペットボトルで喉を潤した。急登に息を切らすこと50分で稜線（女岩ノコル）へ。そこから更に10分で、深田久弥氏が脳溢血に倒れた地点に着いた。小さな記念碑に合掌して、深田氏の功績を偲んだ。狭い頂は、数十人の登山者であふれていた。可能な限り距離をとり、黙食を心がけて昼食をとった。雲が広がって展望は芳しくない。北隣の金ヶ岳だけが、山頂の賑わいを見下ろしていた。下山は、すれ違いの混雑を避けて、尾根道を使う。今年もミツバツツジが紫色の見事な光彩を放っていた。



深田記念公園に到着したのは、午後1時20分。10分後に深田記念碑前祭が始まった。昨年同様、式典は簡素化され、実行委員会会長の内藤久夫葦崎市長のあいさつの後、本支部始め数団体の献花と参列者の献酒が行われた。来年の深田祭はどのような雰囲気で開催されるのだろうか。午後の日差しを柔らかく浴びる山頂を見上げて解散した。（矢崎茂男）

【富士山残雪期雪上訓練】 ■令和4年4月23日（土）・24日（日） ■地図：2万5千図「富士山」

■行程：富士山スバルライン五合目ー佐藤小屋

■参加者：古屋寿隆、上田謙治、小嶋数文、黒沼英美、小川基子、高橋みゆき、井田智子、相川修

雪上技術の習得を目的に、富士山にて4月23日～24日にかけて雪上訓練を行った。富士山世界遺産センターに集合。前日までの悪天候により、富士山スバルラインは通行止めであったが、「解除」との吉報が入り、バスで五合目に向かった。

五合目から、雪解けが始まった道を宿泊先である佐藤小屋へと向かった。昼食後、佐藤小屋周辺のなだらかな雪渓にて雪上訓練を開始し、以下の3点の習得に励んだ。

- ①雪上の歩き方
- ②ピッケルの持ち方・使い方
- ③アイゼンの装着の仕方・歩き方

雪上を登る技術で最も基本的な事は、雪崩や落石の危険を回避するため、常に前方や上方、後方に注意を払い、慎重に行動する事である。また、バランスを崩さず、転ばないための体の使い方、足の動かし方を身に付ける事も重要だ。色々なステップを一つ一つ意識しながら歩いてみた。斜度、雪質により、歩き方を変える事で安全に歩行できる事を実感した。

休憩後、佐藤小屋にて、次のような座学講習を行った。

- ①翌日の講習内容の事前確認
- ②フリーディスカッション

座学講習では、雪山登山に必要なアイゼン歩行、雪上確保、ロープワークなど基本的事項を重点的に学んだ。フリーディスカッションでは、参加者の自己紹介に始まり、雪山登山論議などに花が咲いた。

2日目は、雨の予報のため行程を前倒して、午前6時に訓練を開始した。取り組んだ項目は以下の7つである。

- ①歩行訓練の復習
- ②滑落停止
- ③耐風姿勢
- ④バケツを掘る
- ⑤雪山のロープワーク
- ⑥アンカー（支点）の作り方
- ⑦雪山でのビレイ・ロープを使つての登行

特に、耐風姿勢やピッケルを使用しての滑落停止は命を守る事に直結するため、講師の指示のもと、皆、真剣に取り組んだ。

講習は丁寧な説明で、とても分かりやすかった。また訓練全体の雰囲気として厳しくも和気あいあいとした2日間であったと思う。今回身に付けた事を生かして今後、様々な雪山に挑戦したい。（相川修）



【八重山・能岳・虎丸山】 ■令和4年5月10日（火） ■地図：2万5千図「上野原」「与瀬」

■行程：上野原市役所ー八重山登山口駐車場ー八重山ー能岳ー虎丸山ー駐車場

■参加者：大澤純二、末木佐登子、臼田昌美

上野原市にある「八重山・五感の森」にて、新緑の花見山行を楽しんだ。

まず、駐車場でオカタツナミソウ、歩いていくとジュウニヒトエとギンラン。エビネの群落は満開で朝露に輝き、各々花の形も千差万別。次のキンラン群落も斜面上部まで咲き、満開中。八重山の自然交雑種ジュウニキランソウは終了。頭上には、オトコヨウゾメ、ウツギの白い花。その根元には、ササバギンラン、フタリシズカ、イチヤクソウの蕾。

写真を撮りながら、ゆっくりと進み八重山五感の森・展望台に着けば、360度の絶景の中央に白く輝く富士山。南の丹沢・蛭ヶ岳から大室山、富士の隣には、倉岳山、高畑山、アンテナの三つ峠の西には扇山、権現山。5月の風が心地よい。

さて、一度下り登り返して八重山山頂。ヤマツツジの橙色、エゴノキの白、そして、ツリバナの薄ピンクと樹木の花も満開中。道端に咲くチゴユリに励まされたり、ウリハダカエデの独特な木肌に触れつつ能岳へ。山頂ベンチから、今日一番の富士山を眺めて昼食に。その後、

「ここそ新緑の森・決定版」のような道を下る途中、優しい顔が美しい馬頭観音に見送られて、今年の干支の虎を奉る虎丸神社がある虎丸山に着く。ナルコユリ、アマドコロのうつむく姿や、いきなり道端に現れる目立つ黄色のキンランに数ヶ所で出会い、足取りも軽く下山する。

駐車場手前にある山ノ神・厄神の祠に手をあわせ、今日一日、多くの花に出会えた「花見山行」に感謝した。(臼田昌美)



【第5回田部祭と西沢溪谷】 ■山行日:平成4年5月22日(日) ■地図:2万5千図「金峰山」

■行程:蒔蕨館前駐車場―田部重治文学碑(西沢山荘前・田部祭式典)―溪谷道―旧森林軌道終点―西沢溪谷入り口・解散 ※パーティの一部は、田部祭終了後旧森林軌道を大展望台まで散策。

■参加者:北原孝浩、古屋寿隆、堀口丈夫、遠山若枝、末木佐登子、小嶋数文、中村光吉、大澤純二、渡辺峯雄、ゲストJAC副会長・坂井広志様

大正4年5月、田部・木暮・中村らの一行は、笛吹川の遡行を計画し、新宿発11時半発の列車に乗った。夜明けの塩山駅に降り立ち、遙か遠い奥秩父の溪谷を目指し秩父往還を歩く。歩く事が当たり前だった時代とは言え、想像の及ばない健脚である。今は湖底になっている広瀬の集落を通り抜け、笛吹川の遡行が始まる。私は、田部祭に来る度、車中で先人の偉大さに思いを馳せる。田部の「笛吹川を遡る」によれば、第1回の遡行日は、青い空、青い清流、輝く木々の緑の中、行く先の未知への出会いに心躍らせての入溪だったとのこと。私たちの今日の山行はやや怪しい天気の中であつたが、木々の緑は、5月の輝きを存分に放っていた。



西沢山荘前での第5回田部祭は、落葉松林の緑の下で、いつも通りに厳粛に執り行われた。山梨市観光協会の雨宮会長が、田部等の笛吹川と奥秩父に対する熱い思いを語った後、北原山梨支部長が碑前に献花した。簡素な式典ではあつたが、参列者の心に残るひと時だったことと思う。

支部山行は、JAC坂井副会長の参加もあり賑やかなメンバー編成になった。残念ながら、七ツ釜五段の滝近くで昨年溪谷道が崩落し、その後造られた仮設道が危険であるため、会員数名はネトリ橋から旧森林軌道を散策することになった。二股吊り橋では、鶏冠山の岩峰が天を突き刺している姿を見ることが出来た。方杖橋では、皆で手すりにもたれて真っ白な花崗岩と激流を眺めながら記念写真に収まった。ビュースポットの七ツ釜五段の滝が、崩落の影響でいつもの勇姿を現してはくれなかったのは残念の一言に尽きる。その後の仮設道は問題なく通過し、旧森林軌道終点に登り上げて昼飯にした。帰路、大展望台から甲武信主脈の山塊が、大らかな姿を広げている様に、一同息を呑んだ。参加された皆さん、お疲れ様でした。(渡辺峯雄)

トピックス

☆山岳古道調査便り

【南アルプス北部古道班】

日本山岳会創立120周年事業である山岳古道調査については、南アルプス北部山岳を対象に9本を計画しているが、本年は昨年実施した「ドノコヤ峠～奈良田」に見通しを付け、櫛形山山系を横断する「小

笠原～池ノ茶屋～西山温泉～奈良田」と「湯道・鯉沢～出頂ノ茶屋～足馴峠～湯島～奈良田」を踏査したい。なお、令和元年10月の台風19号により登山道の荒廃甚だしく安全管理には十分注意したい。

また5月の本部とのZOOM会議で、「富士山吉田口登山道」および「早川町新倉～転付峠～二軒小屋」の伝統と歴史ある2コースが追加要請されたため、これらを含め調査していきたい。(古屋寿隆)

【金峰山古道班】

4月26日、ピュア総合にて班会議を開催した。東参詣路・南参詣路・西参詣路ごとに今後の調査の方針と計画を話し合った。荒廃により踏査困難な箇所や、ゴルフ場として造成され踏み入れることの不可能な地点もあり、現実的な方法によって調査を進めていくことを確認した。『甲斐国志』に記載されている長野県川上村からの北面ルートについても、適切な時期を選んで調査することとした。

いにしへの信仰の道を、ゆっくりと味わいながらたどっていきたい。新規参加者も大歓迎である。(小宮山千彰)

☆山梨県山岳レインジャー活動計画について

例年どおり、本年も山梨県から山梨県山岳連盟に委託された希少高山植物調査である山岳レインジャー活動を実施する。当支部の担当は下記のとおり。

- ① 5月2日 三ツ峠(日帰り・探索調査) 対象：主にラン科の植物
- ② 6月20日・21日 鳳凰三山(1泊2日・定経路調査) 対象：燕頭山から地蔵ヶ岳にかけてのラン科の植物
- ③ 8月下旬 白根三山・北岳を中心に(1泊2日・定経路調査) 対象：北岳固有種

本年は北岳山荘が改装のため閉鎖。さらに大樺沢二俣から下部は通行止めになるので活動範囲が制約される可能性があるが、毎年継続調査による経年変化を確認するためにも、シカ・サルの食害も含め、綿密で確実な調査を実施したい。(古屋寿隆)

理事会報告

- 4月16日 1.定時総会議案、役員改選案の承認 2.支部山行の実施報告と計画、第5回田部祭 3.その他 6/10 懇親会の開催案、山岳レインジャー活動計画(三ツ峠)
- 5月11日 1.各理事の分掌 2.2022 第8回やまなし登山基礎講座案 3.親子・家族登山案、山梨岳連との共催案の承認 4.前期(4~7月)支部山行・会員山行の実施報告と計画、中期(8~11月)山行の詳細案内予定 5.山岳古道調査実施案 6.「支部通信」第3期12号の発行 7.甲府湯村温泉「柳屋」にて6/10 懇親会の開催 8.支部活動の活性化と会員増、退会抑制・防止
- 6月8日 1.広報、会計の分掌 2.前期支部山行・会員山行、田部祭の報告と計画、中期山行の詳細案内日程 3.8/11 第3回家族登山のチラシ、支援員の確認、県「山の日」イベント関連事業申請 4.2022 第8回やまなし登山基礎講座チラシ最終校正 5.本部アンケート「山岳祭」、「宿泊施設」の予備調査 6.本部からの山岳古道調査追加要請 7.「支部通信」第3期12号6月末発行の増ページ 8.その他 6/10 懇親会、女子会の結成要望、山行計画・登山届のあり方(継続審議)、会報「山」への寄稿、内藤顧問講演「W・ウェストンの南アルプス」、岳連・JMSCA 報告(古屋寿隆)

- 新型コロナウイルス感染状況が、一定の改善を見せています。6月10日には、2年間中止してきた懇親会を開催し、「旧交」を温めました。今後も事業計画通り、活動を推進したいと思います。
- 「支部通信」「甲斐山岳」への積極的な寄稿をお願いします。山行記録・エッセイ・詩歌・研究等……。これらの掲載が、支部の文化面の向上に寄与することになります。肩の力を抜いて、山への思いを気軽に寄せてください。

編集 矢崎茂男(広報担当)

住所：408-0114 山梨県北杜市須玉町藤田502 TEL：090-7734-2788

Eメール：yazaki-s@taupe.plala.or.jp

